



2020日本自動車殿堂 歴史遺産車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

スズキ ジムニー LJ10型

SUZUKI JIMNY

スズキ ジムニー



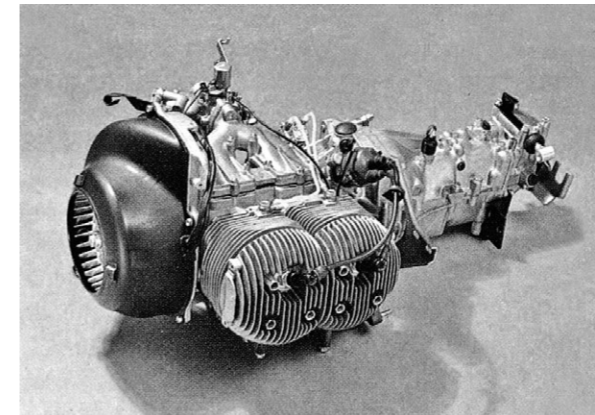
1970年4月に47.8万円で発売された、わが国初の量産型軽四輪駆動車「スズキジムニーLJ10型」。タイヤはジープと同じ16インチを履く。

スズキ ジムニー LJ10型(1970年)主要諸元

全長	2995mm	型式	LJ10型
全幅	1295mm	エンジン型式	FB型
全高	1670mm	駆動方式	4WD
ホイールベース	1930mm	エンジン	2サイクル空冷2気筒 ガソリン
トレッド(前)	1090mm	ボア×ストローク	61.0×61.5mm
トレッド(後)	1100mm	総排気量	359cc
車両重量	600kg	圧縮比	7.3
タイヤサイズ	6.00-16-6PR	最高出力	25ps/6000rpm
最小回転半径	4.4m	最大トルク	3.4kg-m/5000rpm
最高速度	75km/h	変速機	前進4段 1~4フルシンクロ 後退1段 フロアチェンジ
乗車定員	2(3)名	価格	47.8万円(工場渡し)
登坂能力	27.5°		



乗車定員3名のシートアレンジ。スベアタイヤは軽自動車の全長制限3000mmを守るため助手席後部に収めてある。



ジムニーLJ10型に搭載されたFB型359cc 2サイクル空冷2気筒ガソリンエンジン。



ジムニーLJ10型のスパルタンな運転席。フロントウインドシールドは前方に倒すことが可能。

スズキジムニーの誕生には物語がある。1950年代から1960年代中ごろにかけて「ホープスター」のブランド名で軽3輪車と軽4輪車を生産していたホープ自動車(株式会社ホープとして存続したが、2017年に倒産)は、1965年に自動車の生産を一度中止していたが、1967年12月に軽自動車初の四輪駆動車「ホープスターON型」を発表した。カタログのコピーに「軽免許で乗れる不整地用万能車ホープスターON型」とうたう、ジープを小さくしたようなオフロード車であった。

1968年3月に発売されたホープスターON型は、武骨で58万円ほどと高価なうえ、販売拠点も少なく計画通りには売れなかった。継続する体力もなく、同年8月には生産を断念し、製造権の売却を決断した。そして、最初に打診したのは、ON型にエンジン、トランスミッション、アクスルなどの供給を受けていた三菱重工業であったが、当時三菱はジープの製造権、販売権を取得して国産化していた背景もあってか、360ccの四輪駆動車製造権の購入には至らなかった。

次に打診したのが、ホープ自動車の小野定良社長と親交のあった、鈴木自動車工業(現スズキ)の鈴木修常務(現代表取締役会長)であった。当時スズキでは軽乗用車のフロント360、軽商用ライトバンのキャリアバン、スズライトバン、軽トラックのキャリアなどを販売していたが、鈴木常務は「もっと軽の特徴が生かされるユニークな車はできぬものか」と考えており、ホープ自動車の提案に「これだ!」と即断即決で製造権を譲り受けた。ホープスターON型の買取契約についてはスズキ製エンジンを積んだホープスターON型を5台納車することを条件とし、完成したプロトタイプ車によって1968年8月から車両型式LJ10として開発を

スタートした。

そして、1970年3月、360ccの軽自動車サイズだが、ラダーフレームを持ち、高低2速のトランスファー(副変速機)でジープと同じ16インチの大径タイヤを駆動し、シンプルだがアトラクティブなボディーで車両重量600kgと軽量化を図り、高い悪路走破性能を持った、初めての量産型軽四輪駆動車「スズキジムニーLJ10」が発表され、同年4月から発売された。

ジムニーの開発については、スズキ社内でも「売れないのではないか」と懐疑的な意見も多かったが、発売してみると、それまで大型車しかなかった四輪駆動車市場に旋風を巻き起こし、販売台数を大きく伸ばした。その後、800、1000、1300ccの小型車を加えた結果、海外での販売が伸び、スズキ四輪車の輸出の先兵となった。ジムニーの年間最多販売台数を記録した1987年度には、約20万5500台の実に91.5%にあたる約18万8000台が海外で販売されている。

スズキジムニーLJ10型は鈴木修氏の英断によって、新しい軽自動車の可能性を具現化した記念すべきクルマであり悪路走破性とコンパクトな車体による取り回しの良さにより、様々な作業現場や山間部、積雪地の重要な交通手段として活躍した。同時に、本格的な四輪駆動の性能と親しみやすさからレジャーを目的とした需要も開拓し、コンパクト4WDの市場を築き上げ、4世代にわたり50年間も量産されるロングセラーモデルとなった。ジムニーはこれからも世界中のファンたちの期待に応えるべく進化するであろう。その礎を築いたのがLJ10型であった。

(日本自動車殿堂 研究・選考会議)